

参 考

哺乳類を用いた人健康への内分泌攪乱作用に関する 試験結果

詳細版

哺乳類を用いた人健康への内分泌攪乱作用に関する

試験結果まとめ表（案）

試験結果のまとめ表（案）に環境省及び経済産業省が実施した生体内(*in vivo*)試験及び環境省が実施した試験管内(*in vitro*)試験結果を記載した。実施中の試験については、その旨記載した。

生体内(*in vivo*)試験結果のとりまとめについて

環境省が実施した試験結果を「内分泌攪乱作用が疑われる物質のスクリーニング・試験法（哺乳類）評価検討会」の評価・助言に従い、以下の項目に分類し、投与量ごとに「A」₁、「B」₁、「C」₁、「D」₁、「S」₁、「P」₁を記載した。

「A」₁に分類された試験結果については、まとめ表の欄外に記載するとともに、信頼性の認められた既報告において報告されている結果については下線を付した。また、「B」₁、「C」₁、「S」₁、「P」₁に分類された試験結果については、表中に結果を記載した。

備考欄には、投与方法、投与期間について記載した。

- | |
|---|
| <p>A：影響が既に認められている用量(LOEL, LOAEL)付近で有意な所見が認められた。</p> <p>B：影響が既に認められている用量(LOEL, LOAEL)未満で有意な反応が認められた。</p> <p>C：影響が既に認められている用量(LOEL, LOAEL)未満で有意な反応が認められたが、生理的変動の範囲内であると考えられた。</p> <p>D：有意な反応は認められなかった。</p> <p>S：影響が既に認められている用量(LOEL, LOAEL)未満で有意な反応が認められ、追加試験を実施中。</p> <p>P：影響が既に認められている用量(LOEL, LOAEL)未満で有意な反応が認められたが、その意義については今後の検討課題とする。</p> |
|---|

なお、内分泌攪乱作用が疑われる化学物質のスクリーニング・試験法(哺乳類)評価検討会(座長：井上 達 国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター長)における審議の結果、悪影響とは考えられなかった試験結果(体重の高値等)については、統計学的に有意な反応が認められた場合においても、とりまとめに採用しなかった。

経済産業省が実施した試験結果については、同省が公表した試験結果の評価(陰性、陽性)を記載した。

試験管内 (*in vitro*) 試験結果のとりまとめについて

試験濃度範囲を記載し、試験結果欄には、 IC_{50} 値 (標識されたホルモンと受容体との結合を 50%阻害する濃度)、 PC_{50} 値 (E2 等が誘導する化学発光強度の 50%の活性を誘導する濃度)、又は Ec_{10} 値 (バックグラウンド値の 10 倍の化学発光強度比を示す濃度) 等が得られた場合はその値を記載し、得られなかった場合は最大反応値とその濃度を示した。

ただし、有意差検定を行い、有意な反応が認められなかった場合は、「 」とした。また、細胞毒性が認められた場合及び毒性影響と区別することが困難であった場合は、その旨、備考欄に記載した。